

乳児院「未使用タオルの寄付のお願い」

子どもたちがいつも楽しみにしているご飯とおやつ。その時に大活躍なのがタオルエプロンです！このエプロンは職員がフェイスタオルを使って手作りしています。食べることが大好きな子どもたち。食べこぼしてもこのエプロンがあれば安心です。

そこで、「自宅に眠っている未使用のフェイスタオルやバスタオルがある！」という方がいらっしゃいましたら、乳児院にご寄付いただくと大変ありがたいです。

皆さまのご支援ご協力をお待ちしています。(連絡先：029-240-3800)



こぼしても大丈夫。たくさん食べて大きく育てね



日本赤十字茨城県支部乳児院

2023年夏号 茨城県支部のアンケートにご協力いただきありがとうございました

「ハートラちゃんぬいぐるみ」は、厳正な抽選により30名様にプレゼントいたします。

- ・抽選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。
(令和5年11月末現在の応募総数120名)
- ・このプレゼントは、令和5年12月28日で応募締切となっています。



資金の有効活用のため、この受領証をもって日本赤十字社の受領証にかえさせていただきます。
なお、本受領証は、免税証として利用いただけます。

払込みいただいた金額は個人については、所得税法第78条第2項第3号の規定に基づく寄付金に該当し、法人については、法人税法第37条第4項に基づく寄付金に該当します。

〒310-0914 日本赤十字社
茨城県支部 組織振興課
電話 029-241-4516

〈ご注意〉
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ATMではご利用いただけません。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・この用紙による、払込料金は無料となります。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおとこと、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

この場所には、何も記載しないでください。

町内会・自治会を通してご協力のほか、ご都合にあった方法で受付けております。
この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。

日本赤十字社 茨城県支部

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

Red Cross Ibaraki

2024. 冬号

茨城県支部

特集 世界の友と、輝く未来を！ 青少年赤十字



韓国の青少年赤十字 (JRC) メンバーと国際親善

11月18日から22日までの5日間、大韓赤十字社(韓国)の青少年赤十字メンバー2名が当県を訪れ、青少年赤十字メンバーとの交流集会や、茨城高等学校と水戸桜ノ牧高等学校での1日体験学習に参加するとともに、青少年赤十字メンバー宅でのホームステイを行いました。

交流会では、日本と韓国それぞれの青少年赤十字の活動報告や英語でのコミュニケーションを通じて、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」を深めることができました。

※JRC (Junior Red Cross の頭文字：青少年赤十字)



韓国メンバーとハートラちゃん

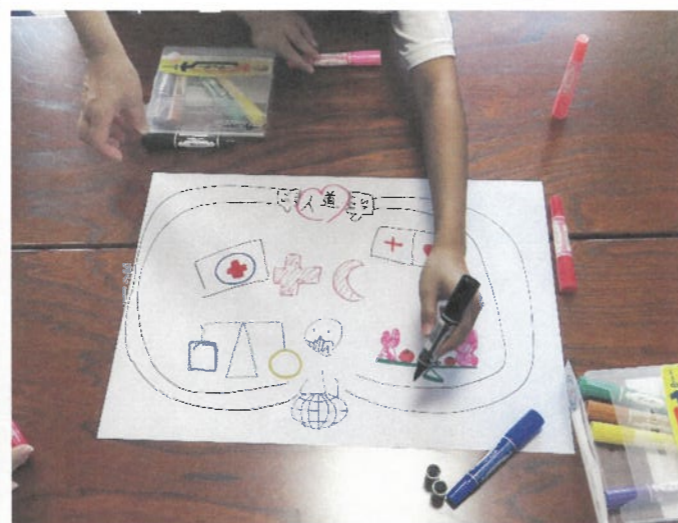
発行元 日本赤十字社 茨城県支部

〒310-0914 茨城県水戸市小吹町 2551
TEL.029-241-4516
FAX.029-241-4714

県内の赤十字活動をSNSで発信中！



リーダー養成研修「トレセン」を4年ぶりに開催！



学校や地域社会のリーダーについて学ぶ

8月22日から24日までの3日間、水戸市少年自然の家において、県内の青少年赤十字中高生メンバーを対象に『令和5年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（以下、「トレセン」）』を開催しました。

このトレセンは、自ら進んで行動し、学校や地域社会でリーダーになれる子どもたちを育成することを目的に実施しており、今回で138回を数えます。

コロナ禍の影響で4年ぶりの開催となりましたが、49名のメンバーと41名の指導者が参加し、防災プログラムや救急法講習、活動計画書の作成など熱心に取り組みました。

トレセンの主なプログラム

- ・赤十字概論・防災プログラム（災害時シミュレーション）
- ・赤十字救急法講習（傷の手当）・フィールドワーク・ワークショップ（活動計画作成）

参加メンバーの声

・トレセンでの経験を忘れずに、常に思いやりを心がけるだけでなく、それを実際に「気づき」、「考え」、「実行する」の3つの目標を持って、人のために行動しようと思います。

北関東三県支部国際交流事業「学校法人アジア学院」を訪問



学院のスタッフから海外の文化を学ぶ



有機農業について説明を受ける

9月23日、北関東三県（茨城、栃木、群馬）支部合同の国際交流事業の一環として、各県の高校生メンバー27人と指導者5人（茨城からメンバー4人、指導者1人が参加）が栃木県那須塩原市にある「学校法人 アジア学院」を訪問しました。

アジア学院は、アジアやアフリカを中心に世界各国からの留学生が農村指導者となるための研修を受ける学校で、約30名の留学生がリーダーシップや有機農業などを学びながら、共同生活をしています。JRCメンバーは今回の訪問で、留学生との交流を通し食が生きることに直結する「フードライフ」の考え方や、文化の違い・海外で起きている人権問題などについて学びました。

参加メンバーの声

・留学生との交流で海外の人権問題など様々なことを学ぶことができ、自分の知見をより広げることができました。

海外青少年赤十字メンバーと国際交流集会



気候変動についてディスカッションするメンバー



平和教育について発表する清水心花さん

11月23日から26日までの4日間、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）において、アジア10か国や地域の海外青少年赤十字メンバー29名と、国内の青少年赤十字メンバー39名が集い、『青少年赤十字国際交流集会』が開催されました。

茨城県のJRCからは茨城高等学校2年 清水心花^{ほのか}さんが代表として参加しました。

今回の交流集会は『持続可能な未来に向けた青少年赤十字活動』をテーマに、平和教育や気候変動について、自分たちが属する国や地域でどのようにリーダーシップが発揮できるか英語でのグループディスカッションを通して交流を深めることができました。

かすみがうら市における地域包括ケア事業

10月19日（木）、かすみがうら市のかすみがうらウェルネスプラザで「地域赤十字奉仕団研修会」が開催され、奉仕団のメンバーは、日本赤十字社茨城県支部職員の指導のもと、災害用炊飯袋を用いた非常食の炊き出しと赤十字防災セミナー（KAGゲーム※1）を行いました。

地域奉仕団は市町村単位で組織されており、災害時には、炊き出し等の支援活動を行います。

日本赤十字社茨城県支部では、少子高齢化や災害の多発化など地域が抱える課題に対し、地域奉仕団や高齢者、子育て世代の市民などを対象に防災や健康に関するセミナーを開催し、「自助」・「互助」意識の醸成を図り、より良い地域づくり（地域包括ケアシステム※2）に取り組んでいます。

※1 家具安全対策ゲーム…自宅の平面図を描くことにより、危険箇所を把握し、地震から自分や家族の命を守るために重要な家具の安全対策について学ぶ。

※2 厚生労働省が推進しているシステムで、団塊の世代が75歳以上となる2025年をめどに、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される社会システム。



災害用炊飯袋を用いた炊き出し訓練



自宅内の危険な場所を確認

奉仕団活動への想い



かすみがうら市地域奉仕団の皆さん

私たち奉仕団は、災害や有事の際に地域内で助け合う活動をしております。市の総合防災訓練を前に日赤茨城県支部の職員にご支援をいただき災害用炊飯袋を使用した非常食の手順を再確認しました。防災訓練当日も手際よく奉仕団一人ひとりが役割を理解し実施することができました。人と人との交流が戻ってきましたので、これからも他団体と連携を図りながら地域ニーズに応じた活動に取り組んでまいります。

日本赤十字社第2ブロック支部総合訓練

令和5年10月21日（土）、22日（日）、埼玉県秩父市で「令和5年度日本赤十字社第2ブロック支部総合訓練」が行われ、茨城県支部からは水戸赤十字病院救護班、日赤災害医療コーディネーター、支部職員が参加しました。

この訓練は、日本赤十字社第2ブロック（関東（1都6県）、山梨県、新潟県）管内で災害が発生した際に、円滑な広域支援活動と相互に連携した災害救護活動を行うことを目的に毎年開催しています。

今回の訓練では、豪雨災害により河川の氾濫や冠水、土砂崩れが発生したとの想定のもと、第2ブロックの各都県支部の救護班が被災地へ参集し、避難所への巡回診療を行いました。

水戸赤十字病院救護班は、避難者に寄り添いながら避難所内のライフラインや設備状況、衛生面、生活環境の確認と診療が必要な方への対応を行いました。避難者役として参加されていた方からは「日本赤十字社の方が来てくれると本当に安心します。ありがとうございました。」などの声をいただきました。

茨城県支部では、本県内で実際に災害が発生した時に、迅速かつ適切な救護活動が行えるよう、定期的に訓練を行っているほか医療資機材の整備も進めています。



避難所までのアクセス確認



避難所の保健師との情報共有



避難者への声かけ



体調が悪い方への聞き取り

県内赤十字施設の活動報告

古河赤十字病院 『70年の信頼を、今日も明日も、これからも。』

当院は令和5年11月に創立70周年を迎えました。院内公募で決まったキャッチコピーがこちらです。記念ロゴマーク(右下)は、古河市と縁の深い雪の結晶をモチーフに、患者・行政・医療スタッフなど様々な人が関係して成り立つ病院の姿を表しています。

70年の間、古河市・総和町での赤痢集団発生や東日本大震災、新型コロナウイルス感染症の流行など、人々の健康や安心を脅かす多くの災厄がありました。当院はそのたび、地域医療や災害医療を担ってまいりました。

これまで当院を支えてくださった皆さまに感謝いたします。令和6年10月31日までを「70周年記念期間」とし、イベントや院内整備を行う予定です。キャッチコピーのとおり、これまで地域の皆さまから寄せていただいた信頼をさらに確かなものとするため、これからも職員一同、精進してまいります。



記念ロゴマーク



創設当時の古河(猿島)赤十字病院
昭和28年

血液センター 『3月1日(金)つくば献血ルーム移転オープン!』

この度、つくば献血ルームはトナリエクレオ4階に移転オープンします。

移転後は県内最大数の採血ベッドを備え、受付・休憩スペースが広く快適になります。座席数も増え、周囲からの視線が気にならないように座席の配置なども工夫するとともに、無料Wi-Fiも完備し、一人ひとりが落ち着いて献血にご協力いただける空間を確保します。トナリエつくばスクエアでのお買い物のついでに、また、TXつくば駅直結ですので、学校帰りや仕事帰りなどにもお気軽にお立ち寄りください。提携駐車場もございますので、家用車でのお越しにも便利です。献血が初めての方もぜひお気軽に新しいつくば献血ルームへお越しください。

移転オープン予定日 令和6年3月1日(金) 午前10時

移転先住所 つくば市吾妻1-7-1 トナリエクレオ 4階



つくば献血ルーム公式SNS

水戸赤十字病院 『ロボット支援手術 累計1,000症例を達成』

当院は、2013年、内視鏡手術支援ロボット「da Vinci サージカルシステム」を用いたロボット支援手術を開始しました。コロナ禍においても症例を重ね、2023年2月に累計1,000症例を達成し、9月には1,100症例を超えました。

ロボット支援手術は、内視鏡カメラや手術器具を装着したロボットアームを、医師が遠隔で操作する手術のことです。ロボットアームに装着する鉗子は、人間の手よりも可動域が広く、繊細な操作が可能なおうえ、手振れ補正機能があることが特徴です。また、開腹手術に比べて、傷口が小さいため、身体への負担が少なく、術後の回復が早い傾向がみられます。当院のロボット支援手術の対象疾患は、前立腺がん、腎がん、膀胱がん、胃がん、大腸がん、婦人科がん、良性婦人科疾患(骨盤臓器脱含む)です。

今後も、患者さま一人ひとりが、最適な治療を選択できるよう、幅広い医療の提供に努めてまいります。



ロボット本体



遠隔操作する医師

台風第2号・第13号災害義援金へのご協力ありがとうございました

台風第2号・第13号災害義援金へのご協力ありがとうございました。

令和5年に発生した「台風第2号等大雨災害」及び「台風第13号災害」に対する義援金へのご協力を皆さまにお願いしたところ、全国からたくさんの金額が寄せられました。ご協力をいただきました皆さま方に、心から深く感謝申し上げます。

茨城県支部は、皆さまからお預かりしました善意あふれる義援金を全額*、茨城県の「災害義援金配分委員会」に送金しております。

※義援金の募集や受付などにかかった経費は、一切いただいておりません。

- ◆「台風第2号等大雨災害義援金」 50,580,461円 受付は9月30日で終了
- ◆「台風第13号災害義援金」 19,422,558円(11月30日現在) 受付は12月31日で終了

皆さまのご支援(ご寄付)が活動の財源です

近年の自然災害は、多様化・激甚化の傾向にあり、避難所生活の長期化も予想されます。赤十字は、被災された方々の健康を守るため、皆さまから寄せられる活動資金を財源に、毛布や緊急セットなどの救済物資を整備しています。また、災害発生時は、被災された方々に救済物資を配布します。

例えば、5,000円のご寄付で**4人分の緊急セット**を備えることができます。

茨城県支部では、地震や台風などの自然災害発生時に現場へ駆けつけ救済活動を実施し、被災された方々の健康と安心を守ります。



ご協力方法



お振込：本紙に付属した払込取扱票(ゆうちょ銀行)をご利用ください。



クレジットカード：ホームページからお手続きください。



遺贈(遺言や相続財産による寄付)：資料を送付のうえ、詳細をご説明します。

この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。ご賛同いただきましたら、ご支援いただけると幸いです。

99	東京	払込取扱票									
口座記号番号		金額									
001000		千 百 十 万 千 百 十 円									
789872		7 8 9 8 7 2									
加入者名		料 金		備考		免					
日本赤十字社茨城県支部											
おとこと		右の「受領証」は、免税証明として利用できます。									
おなまえ											
お電話番号											
ご依頼人・通信欄		地区区分扱い会員SC									
◎お礼状と領収書が不要な場合は☑をお願いします。 □不要		日 附 印									
◎このチラシをどこで手にしましたか☑をお願いします。											
□市報・町内会の回覧 □イベント											
□赤十字講習 □当支部からの郵送											
(救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習)											
□その他() R5日赤茨城(冬号)											
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号東第53203号)											
これより下部には何も記入しないでください。											

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	001000										
789872		7 8 9 8 7 2									
加入者名		日本赤十字社茨城県支部									
金額		千 百 十 万 千 百 十 円									
おなまえ											
ご依頼人		様									
料 金		日 附 印									
備考		免									

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。切り取らないでください。

この受領証は、大切に保管してください。